

私たちは、2016 年東京オリンピックを歓迎します



東京インナーハーバー連絡会議は私たちで構成されています

(株) I H I ・ N T T 都市開発 (株) ・ (株) 江間忠ホールディングス ・ (株) 大林組
鹿島建設 (株) ・ 清水建設 (株) ・ 大成建設 (株) ・ 東京ガス豊洲開発 (株) ・ 東京電力 (株)
(独) 都市再生機構 ・ 三井不動産 (株) ・ 三菱地所 (株) (12 社 五十音順)

Tokyo Inner Harbor
東京インナーハーバー連絡会議

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7
八重洲ファーストフィナンシャルビル 18 階
電話 03-5200-8655
<http://www.tokyo-innerharbor.com>

東京インナーハーバー構想



contents

”はじめに”	1
視点1 ”過去を振り返って将来のあり方を探る”	3
視点2 ”東京湾におけるエリア特性に応じた整備課題を探る”	5
視点3 ”海からの視点で将来のあり方を探る”	7
視点4 ”国際都市東京でのインナーハーバーの位置づけを探る”	9
視点5 ”スポーツ利用の可能性を探る”	11
視点6 ”環境的な価値を探る”	13
視点7 ”観光拠点としての価値を探る”	15
”まとめ”	17

”はじめに”

私たち、東京INNERハーバー連絡会議は、東京INNERハーバー構想を提案するにあたって、7つの視点から東京の新名所となるための将来像を探ります。

私たちが将来構想を提案する2つの目的

- ① 晴海運河と東雲運河の将来像を提案する
 - ・東京湾の中での位置づけ
 - ・機能の転換期を迎えた中でのあり方
- ② 都心の水際線のあるべき姿を提案する
 - ・水辺と都市機能を結ぶ、新しい環境の創出
 - ・水辺を活用した都市のにぎわい



晴海／朝潮運河沿いのプロムナード「桜の散歩道」



晴海・豊洲／東京INNERハーバー遠景

東京INNERハーバー構想の基本的考え方

- ① 環境や景観に配慮した美しいまちづくり
- ② 地域の回遊性を確保した一体的なまちづくり
- ③ 水域・水辺を積極的に活用したまちづくり
- ④ 安全に安心して過ごせるまちづくり



オーストラリア・シドニー／ダーリングハーバー



アメリカ・ボストン／クインシーマーケット

東京INNERハーバーの将来構想を探る7つの視点

視点1 ”過去を振り返って将来のあり方を探る”

東京INNERハーバーが、過去どのように活用されてきたのかを振り返り、歴史・文化を継承する将来のあり方を探ります。

視点2 ”東京湾におけるエリア特性に応じた整備課題を探る”

東京INNERハーバーのゾーニング特性を整理して、水と陸を結ぶ新しい環境の創出を目指すまちづくりの課題を探ります。

視点3 ”海からの視点で将来のあり方を探る”

運河や海に周囲を囲まれた立地であることを活かして、水から陸へと人を結ぶ、INNERハーバーだからこそできる将来のあり方を探ります。

視点4 ”国際都市東京でのINNERハーバーの位置づけを探る”

工業地帯から都市機能へ変貌を遂げた東京INNERハーバーが、国際都市東京の新しい顔となる将来のあり方を探ります。

視点5 ”スポーツ利用の可能性を探る”

2016年東京オリンピックを契機に、オリンピックスタジアム建設が計画される晴海を中心にスポーツ利用の可能性を探ります。

視点6 ”環境的な価値を再評価する”

水辺の景観や防災機能、周囲を取り巻く自然環境への配慮を評価することで、東京INNERハーバーが持つ魅力を探ります。

視点7 ”観光拠点としての価値を探る”

東京INNERハーバーが東京の新たな観光拠点として、日本のみならず世界にアピールしていくための観光資源を探ります。

視点1 “過去を振り返って将来のあり方を探る”

東京インナーハーバーが、過去どのように活用されてきたのかを振り返り、歴史・文化を継承する将来のあり方を探ります。

江戸時代、物流手段として中心の役割を果たした水運

江戸は、水運によって大きく発展した歴史があります。将来に向けて、晴海、豊洲の水域を活用した水辺のにぎわいや、新しい水上交通の導入を提案し、東京インナーハーバーが「水の都」再生の先駆けとなることを目指します。



広重『名所江戸百景』より「日本橋雪晴」。当時、水運がいかに盛んだったかがわかります。



広重『東都名所』より「隅田川渡場の図」。橋が少なかったため、水運を利用した渡し舟が盛んでした。

昭和の月島の主な交通手段として活躍した都電

当時、月島の人々の交通は都電により大変便利になりましたが、昭和43年に都電の姿は消えてしまいました。近年、新しい都市交通システムとして注目を集めているLRTなどの導入を提案し、東京インナーハーバーへの交通の便がより良くなること目指します。



交通事情再整備という理由のため、月島から姿を消した都電28系統の最終装飾電車。



バルセロナの市街地を走るLRT。環境や人にやさしい新交通として整備が進められています。

昭和の日本経済を支えた、臨海工業地帯と港湾機能

高度経済成長期における東京湾岸部は、東京のみならず日本の産業と経済を支える拠点として整備、発展してきました。現在、晴海と豊洲は工業・港湾機能から都市機能へと目覚ましい変貌を遂げ、今後は水際線を開放し、水と陸を結ぶ新しい環境の創出を目指します。



大型貨物船が数珠繋ぎとなって荷揚げを待つ、晴海埠頭と芝浦埠頭の様子。



都市化が進む晴海、豊洲。超高層マンションの建設やオフィスビルの建設が今も進んでいます。

幻のオリンピック東京大会と万国博覧会

昭和15年、東京ではオリンピック東京大会と万国博覧会の開催が決定され、万博の会場には、現在の晴海と豊洲で計画されていました。万博は入場券まで売り出されていましたが、どちらも戦争により中止を余儀なくされ、ついに払い戻しのないまま終わりを迎えました。



朝日新聞創刊50周年を記念して、万国博覧会が年賀状として発行した絵葉書。



当時売り出された入場券。この入場券は大阪万博、愛知万博の入場券としても使用できました。

視点2 “東京湾におけるエリア特性に応じた整備課題を探る”

東京インナーハーバーのゾーニング特性を整理して、水と陸を結ぶ、新しい環境の創出を目指すまちづくりの課題を探ります。

水辺のプロムナードエリア

- ・東京の水辺に親しみやすくなる水辺のプロムナード整備
- ・回遊性を高めるためのサイクリングロード整備



シドニー・水辺のプロムナード

都市活動エリア

- ・都市活動をより活性化するにぎわいと憩いの環境づくり
- ・後背地となる水辺のプロムナードへの動線確保



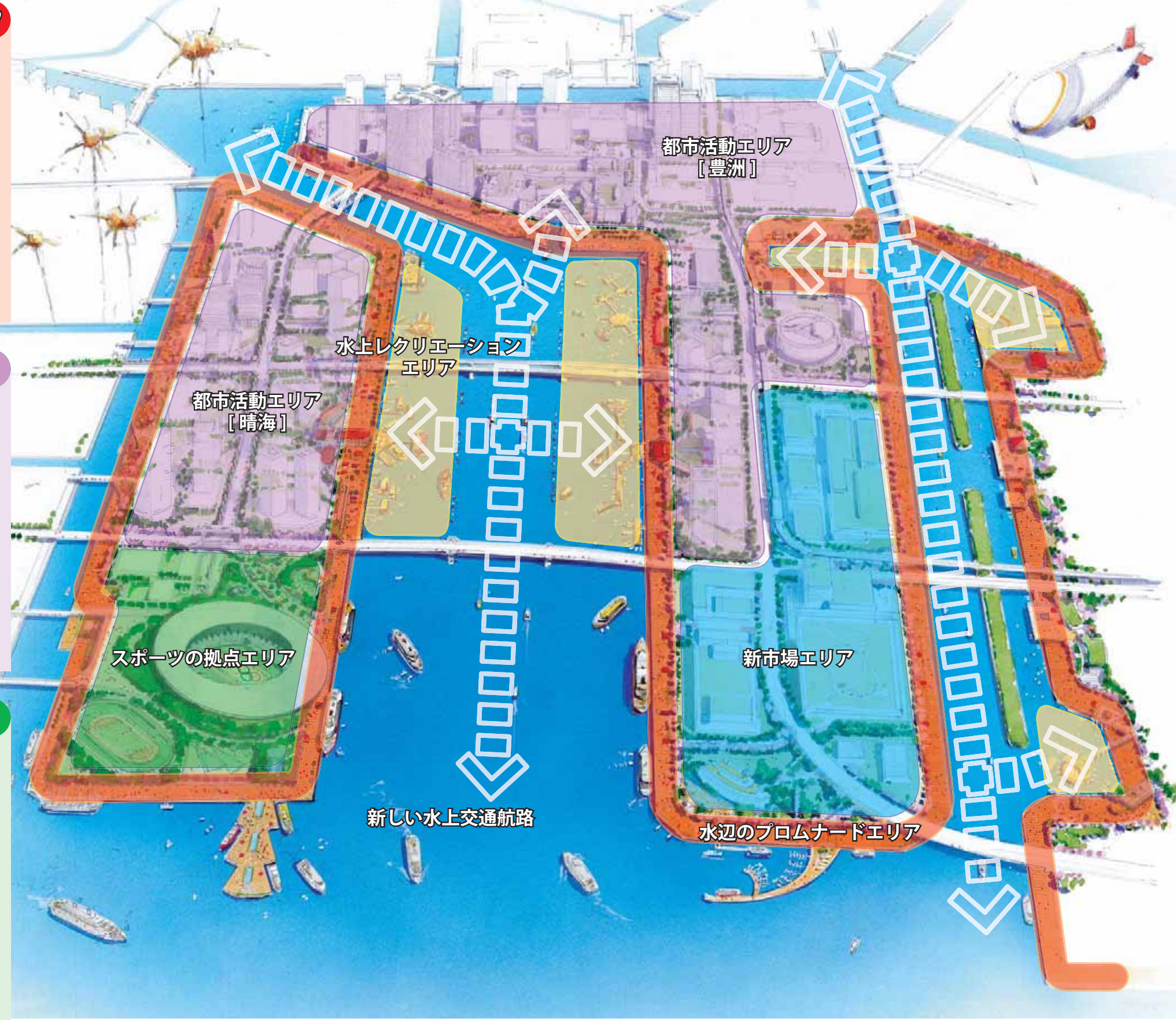
NYC・都市空間の憩いの場

スポーツの拠点エリア

- ・2016東京オリンピックの会場となるスタジアム
- ・スタジアムを核とするスポーツを気軽に楽しむ環境づくり



ボストン・水辺のジョギング



水上レクリエーションエリア

- ・水辺のプロムナード沿いのにぎわいを創出する水上レストランやマリーナの整備
- ・水域イベントの促進



ロンドン・水上レストラン

新市場エリア

- ・新しいにぎわいを生み出す豊洲新市場
- ・環境へ配慮した、温室効果ガス削減や大規模緑化整備



バルセロナ・市場のにぎわい

新しい水上交通航路

- ・東京の水辺に親しみ、気軽に利用できる水上交通の導入
- ・災害時に円滑な物資、人員輸送を図るための環境づくり



ボストン・水上タクシー

視点3 “海からの視点で将来のあり方を探る”

運河や海に周囲を囲まれた立地であることを活かして、水から陸へと人を結ぶ、インナーハーバーだからこそできる将来のあり方を探ります。

海からの景観

普段、私たちがまちの景観を見る際、陸からがほとんどだと言っても過言ではありません。東京インナーハーバーは海からの景観にも配慮して、美しいスカイラインの形成や、多くの緑と一体となった、きれいな水辺づくりを目指します。



水上バスで海から見た、緑豊かな晴海埠頭の景観。



海からの景観を意識したアメリカ、ニューヨーク。

水辺を開放することで創出される親水性

将来の東京インナーハーバーでは水辺を開放することで、東京の水辺に親しんでもらえるまちづくりを目指します。そのために私たちは水辺をより快適に、より美しくしていくことで、東京インナーハーバーがいかに魅力あるエリアであるかをアピールしていきます。



水辺に隣接する豊洲公園でくつろぐ人々。



水辺の開放から創出された晴海運河の景観。

水辺のプロムナードと水上交通

水辺のプロムナードの整備とともに、水辺のプロムナードと都市活動エリアを容易に結ぶための動線確保や、わかりやすいサインの導入を目指します。そして、晴海と豊洲の水際空間を結ぶ大きな役割として、気軽に利用できる水上交通の実現を目指します。



晴海2丁目の護岸沿いのプロムナード。



船が接岸できるシドニーのダーリングハーバー。

海のエンターテイメント

東京インナーハーバーでは、水辺を積極的に活かしたイベントや水上交通による観光ツアーなどを推進していきます。このような海のエンターテイメントは、水辺の持つ魅力を引き出し、活力のあるまちづくりに大きな役割を果たします。



ららぽーと豊洲から出発する水上バス「ヒミコ」。



水陸両用車を活用した、ボストンのダックツアー。

視点4 “国際都市東京での位置づけを探る”

工業地帯から都市機能へ変貌を遂げた東京インナーハーバーが、国際都市東京の新しい顔となる将来のあり方を探ります。

社会構造の変化から探る将来のあり方

〔1970年代の東京湾岸部〕

東京港湾部の品川、大井、豊洲、晴海、勝どきは日本の経済を支える港湾・産業拠点として整備、発展しました。

豊洲、東雲は火力発電所、造船工場、鉄工所、製材所、貯木場などがひしめく産業基地として日本の経済を支えました。

東京港には数多くの貨物船が入港しており、特に晴海埠頭は港湾機能の核として大きな役割を果たしました。

台場の基本的な埋め立て工事が完了して、台場は広範囲に利用されるようになりました。この頃は貯木場としても活用されていました。



1970年代の東京港湾部ゾーニング

〔現在の姿から将来のあり方を探る〕

現在の東京港湾部は港湾・産業拠点から都市機能へと変貌を遂げ、超高層マンションやレジャー施設、文化施設などが整備され、東京の新しい顔として発展しています。

これまで東京インナーハーバーエリアでも数多くの整備が進められてきましたが、今後はより東京の水辺に親しんでもらえるまちづくりを提案して水と陸を結ぶ新しい環境の創出を目指します。

また、東京の水辺に親しんでもらうとともに地域の回遊性を高めるため、より身近な水上交通を提案して開かれた水上のみちづくりを目指します。



現在の東京港湾部ゾーニング

海外のインナーハーバー事例

〔オーストラリア・シドニー〕

シドニーは、オーストラリア大陸南東岸のポート・ジャクソン湾（シドニー湾）およびボタニー湾に面した、港湾都市として知られる一方で、壮大な自然に囲まれた豊かな環境を持っています。

シドニーはメルボルンとともに、オーストラリアの経済、交通、流通、文化の中心であり、オセアニアを代表する世界都市でもあります。また、オペラハウスやハーバーブリッジなど、多くの有名な観光資源を有しており、世界で最も美しい都市のひとつとも言われています。

2000年には夏季オリンピック「シドニーオリンピック」の開催地となりました。



海から見る景観にも配慮したまちづくり



ハーバーブリッジとオペラハウス

〔アメリカ・ボストン〕

ボストンは、この地でアメリカ独立宣言が発せられた歴史を持ち、アメリカで最も古い都市の一つです。また市域の半分近くを水面が占めており、まさに水辺に開かれた都市といえます。

貿易港として発展したボストンは、1950年代に産業の空洞化が始まり、都市の衰退期を迎えることになりました。

このような背景から市は都市再開発公社を設立して再開発を実施することで衰退期を乗り越えました。1970年以降は好況に転じ、現在では学術・科学技術・政治の中心地となり、新産業を創出することを目的に、様々な開発が推進されています。



水と緑に囲まれた美しい景観



水際線の開放とウォーターフロント開発

視点5 “スポーツ利用の可能性を探る”

2016東京オリンピックを契機に、オリンピックスタジアム建設が計画される晴海を中心にスポーツ利用の可能性を探ります。

2016東京オリンピックを契機とした、スポーツの拠点

オリンピックというスポーツの祭典によって、スポーツへの意識がより高まります。特に晴海はオリンピックスタジアムの建設予定地として計画されており、晴海を中心に東京INNERハーバーで気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを目指します。



水辺のプロムナードでは、気軽にウォーキングやジョギングを楽しむことができます。



サイクリングロードでは、サイクリングを楽しみながら、地域の回遊性を高めることができます。

水辺を活用した、水上スポーツの可能性

晴海大橋・有明北橋渡初めのイベントとしてウェイクボードやドラゴンボード、カヌーの水上スポーツデモンストレーションが行われました。東京INNERハーバーが、水上スポーツを楽しむことができる新しいエリアとなることを目指します。



イベントで行われた水上スポーツデモンストレーションの様子。



高齢者や身障者も水上スポーツを楽しむことができるアクセスディンギー。

将来構想における東京INNERハーバー・スポーツマップ

将来の東京INNERハーバーエリアでは、水辺のプロムナードやサイクリングロード、水域の開放など、水と陸を結ぶ新しい環境を創出するとともに、多様なスポーツを誰でも気軽に楽しむことができる土地利用を提案します。



東京INNERハーバー・スポーツ利用マップ

視点6 “環境的な価値を再評価する”

水辺の景観や防災機能、周囲を取り巻く自然環境への配慮を評価することで、東京インナーハーバーが持つ魅力を探ります。

水辺の開放感を活かした豊かな景観

このエリアは水と緑に囲まれ、かつ水辺の開放感を有する稀有な環境を持っています。近年では東京湾や運河を眺望する超高層マンションの建設や、東京を代表するウォーターフロントとして水辺を活用した豊洲のまち開きなど、東京の新しい魅力を生み出しています。



晴海トリトンスクエアから朝潮運河を眺望した風景。



水辺の開放感を活かした豊洲の遊歩道。

緑の拠点と風の道

東京インナーハーバーは水だけではなく、広大な緑にも囲まれています。代表的な東雲運河の森を貴重な資源のひとつと捉えて、より美しいものにしていきます。また「海の森」から都心へ、風の道を結ぶ拠点としても期待されています。



豊かな自然の風景を持つ、東雲運河の森。



ビルとビルの間に設けた緑地帯が生み出す、品川の風の道。

防災機能の確保

晴海、豊洲は高波などの災害から都市空間を守るため、海岸保全予定区域として計画され、後背地の開発と連携して環境や利用に配慮した整備を行うとされています。また、震災時における水上交通による物資・人員輸送が期待され、東京の防災拠点としても機能します。



災害時に物資・人員輸送の拠点として機能する、らぽーと豊洲のドック。



晴海会場で行われた中央区・江東区合同総合防災訓練の様子。

自然環境の創出

晴海三丁目では、カニ護岸と呼ばれる環境配慮型護岸の整備が進められています。カニ護岸とは、カニのような水生生物が生息しやすい近自然型ブロックを用いた護岸で、豊かな水域の生態系の実現と水質の改善効果が期待されています。



晴海三丁目のカニ護岸（環境配慮型護岸）。



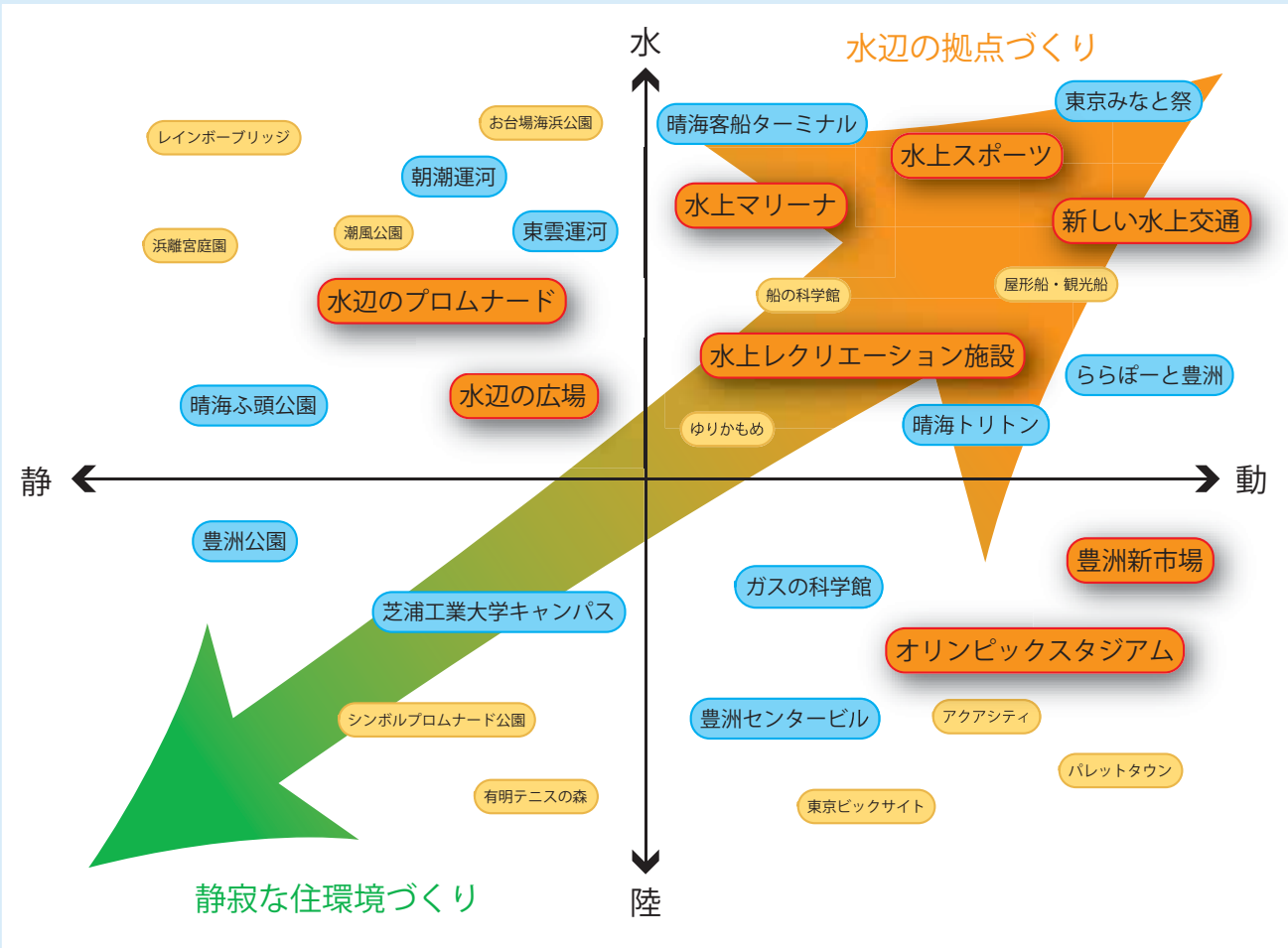
カニやハゼが生息することで、それを狙う大型魚類や鳥類が集まり、多様な生物が住む環境になります。

視点7 “観光拠点としての価値を探る”

東京INNERハーバーが東京の新たな観光拠点として、日本のみならず世界にアピールしていくための観光資源を探ります。

東京INNERハーバーの観光資源を探る

東京INNERハーバーは、将来にむけて魅力ある観光資源を生み出していきます。その多くは東京の水辺を積極的に活用するものであり、国内、海外の事例に負けない、東京INNERハーバーだからこそできる将来像を目指します。



東京INNERハーバーの観光資源分布図

- 東京INNERハーバーの観光資源（現在）
- 東京INNERハーバーの観光資源（将来）
- 東京INNERハーバーエリア以外の東京湾の観光資源



水辺のプロムナード
(アメリカ・ニューヨーク)



水上レクリエーション施設
(オーストラリア・シドニー)



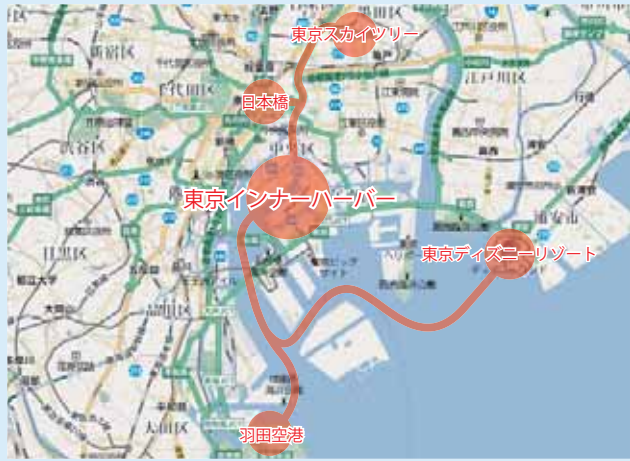
新しい水上交通
(アメリカ・ボストン)

東京INNERハーバーと観光名所を水上交通で結ぶ

東京INNERハーバーは、水辺を積極的に活用した観光拠点としても機能します。将来は近郊の観光名所を結び、東京の観光ポテンシャルをますます大きくしていくことを目指していきます。



現在、東京INNERハーバーは水辺を活用した多くの観光資源を有しています。



将来、東京の名所を水上交通で結び、東京観光の中心として機能することを目指します。

豊洲でのまち開き

2006年の春、豊洲は東京を代表するウォーターフロントとして、新しいまち開きを迎えました。この出来事は多くの人々に水辺の魅力を発見する驚きと感動を与え、その後も東京の新名所として発展を続けています。



東京の新名所として、いまま開発が進む東京INNERハーバーの豊洲エリア。



東京では稀な私有水面を活用した、ららぽーと豊洲。

” まとめ ”

1 から 7 までの視点をもとに、「水と陸を結ぶ」 5 つのコンセプトから東京インナーハーバー構想を提案します。そして「東京の新名所」となる、水と陸を結ぶ新しい環境の創出を目指します。

構想実現に向けた5つのコンセプト

[Concept 1]

東京の新たな”スポーツの聖地”を目指します



[Concept 2]

東京の”顔となる水辺づくり”を目指します



[Concept 3]

東京の開かれた”水上のみちづくり”を目指します



[Concept 4]

東京の”海のエンターテイメント”の舞台を目指します



[Concept 5]

東京の”緑と風の道”の拠点を目指します



東京インナーハーバー構想



魅力と活力にあふれ、働き、学び、住み、食べ、遊ぶことのできる複合的なまちづくりを目指します。